河合塾エンリッチ講座 2014

メディアの仕事

私はテレビドラマを作ってきた

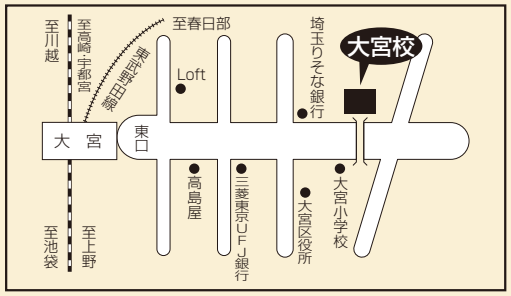
●講演：**市川哲夫**（ドラマプロデューサー）　●司会：**安藤紀典**（小論文科講師）

昨年、日本でテレビ放送が始まって、60年が経過しました。
私は1974年（昭和49年）テレビ局・TBSに入社しました。テレビドラマを作りたいと思ったからです。当時はテレビの黄金時代で、テレビ局を目指す若者は多かったのです。
首尾よく就職して、それから30年余りテレビドラマを作って来ました。
そして7年前からは、放送専門誌『TBS調査情報』の編集長をやっています。

テレビは「時代を覗く窓」とも、「時代を映す鏡」とも言われています。
私は「テレビドラマ」もまたジャーナリズムだと思っています。
マス・メディアを目指したいと思っている皆さんに、テレビに対してもそれなりに興味、関心を持ってもらえたら嬉しいと思います。
放送と出版に関わってきた40年のメディアでの経験をお話したいと思います。

◆プロフィール：**市川哲夫**（いちかわ てつお）
TBSメディア総合研究所 編集部長 中央大学総合政策学部 兼任講師
1949年さいたま市（旧浦和市）生まれ。県立浦和高校を経て中央大学法学部卒業。
1974年TBS入社。以後ほぼ一貫してテレビドラマに関わる。1980年金曜ドラマ『突然の明日』で演出家としてデビュー。2年後にプロデューサーとして『アイコ16歳』を手がける。他に主な作品では金曜ドラマ『港町純情シネマ』を演出、スポーツや音楽ドキュメンタリーも演出した。代表的ドラマ作品に『代議士の妻たち』シリーズや日曜劇場『課長サンの厄年』などがある。また松本清張作品では『迷走地図』『波の塔』などを制作した。2007年に『TBS調査情報』誌の編集長に就任。同誌の編集では、昨年の第50回ギャラクシー賞・志賀信夫賞を受賞している。

7月7日(月)　17:30～19:00
大宮校　3A教室

入場無料
申込不要

〒330-0846　さいたま市大宮区大門町 3-67-2
0120-192-720
●JR・東武野田線／大宮駅東口より徒歩7分